

但馬皇女の高市皇子の宮に在(いま)しし時に、穂積皇子を思ひて作りませる御歌一首				
秋田之	穂向乃所縁	異所縁	君尒因奈名	事痛有登母
秋の田の	穂向の寄れる	片寄りに	君に寄りなな	言痛くありとも
あきのたの	ほむきのよれる	かたよりに	きみによりなな	こちたくありとも
秋の田の	稲穂がなびくように	一方向に	お兄さまに寄り添いたい	どんなに人の口がうるさくても
As the ears of rice on the autumn fields bend in one direction, so with one mind would I bend to you, painful though the gossip be.				
英文はリービ英雄(2004)による			万葉集	卷二 114 但馬皇女

【文献】

リービ英雄(2004): 英語で読む万葉集, 岩波新書赤 920